一屋新兵衛
勝川春扇画
へ13
3042
1

へ13
3042
1-2

東里山人作
全部六冊
玉屋新兵衛
餘光之筆跡
○耳泉堂梓
勝川春扇画

○初冊目次
○全部六冊
江戸神明前　和泉屋市兵衛梓
序
紅粉翠黛は唯白皮と絲と男女の愛樂い臭
骸を抱き知も不識もまどひて是がため多く
不義の害を加ふ暴惡狼戾すべて其
然累世不拘ひと互に彼を討刺して讐敵盡
支化〜須く慎可き仁義禮智信可恪の
無常の常可恥は眼前の迷惑なり
維文化十年歳龍集癸酉
正月穀旦
東里山人

門へ13
3042
1

昭和九年
七月二十三日
購求

駿河国
會問屋
宿豪冨
玉屋新兵衛

花街
侠客
出邑真兵衛
大磯 柳園 侠客
大木場左夫二郎

○金沢左中將
照国公簫中
○簫御方
金澤藩中○猪飼五九郎二

色紙すゝ法
竪たすけ
横みすみ
人の
大磯
唱妓
三国屋
小女良

給ク天巻ハ雲ニ騰
風ニ跨リ大虚ニ飛
揚メ自在ヲナス地
巻ハ能山ヲ穿チ石
中ニ入人巻ハ四海
ニウシ遊メ形ヲ藏
シ舟ヲヘンジテ奇
妙ノ術ヲ行

西川加陵ノ数胃山
ニ在テ道ヲ学フ三
十年アル時ニハカ
ニ石辟ノ中ニ聲ア
リ数日如此メ忽チ
雷震シ其石辟クタ
ケ中ニ天書三巻ア
リ是ヲ通甲天書ト

左慈字者
元放道号
称烏角先生
魏国人ナリ

○日本回国修行者
慈悲心
○弄出金毛師子
兒從空放
下露金威
置時師子
在何處匝
地清風只自知

まくのうぐき　九のおやゝとゝ
おもひまうして　まゐりつゝて
これはゝかどとまのるりはい
ゲラー　ゆひを　おりてうを
ゆれいりみてゝ　ゆんたかゆ
なつ　ゆてきさるくもゝ
ゑんもまつゝくらゝ　ふ
わきちゝなるうきつけと
ていうのうきーのうこられを
お玉がんびゝうけさるまゝゆ
ゆゝろのその中ーよりいぶまも
あゝぶ　おやゝまどー
あるれ　あゝゝゝんゝ

お玉ハ父のものがたり
をきゝてたゝぶれ
おせひ　そゝゝや
ぶらうゝまれゝ
ゝつゝらゝ
ちゝ　ゝてゝ
いひあがらぶつの
おやゝまゝゝもおりゝて
ひぶまゝゝの不孝あらけもいぶーまゝ
ゝき

世ゝのあいまちゝもかゝゝゝゝゝ
おゝぶゝゝゝゝゝ
おゝゝてゝゝゝゝ
いゝゝゝもゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

○

おにいさまのとくあくにはそ
ばもいやうじんをしたがへ
いろ〳〵とくひしかひきゝろる
きんらんぶまをかやをきたく
まつのこゝーくうのまをへ
ひきぶくくんぶをへうーの
ゐるのあさかるまひをたに目
ゆめたるこけ　ひきのるくぢ
をこぎまをそいちぶををうぶ
ぶくをりかておにいををうて
ぶのりるくんぶをりあのやし
くいるぶをみ母のうさきうち
ゐんりかいとけざるうと
ニにをかイトいくけはぞ
ある夜のゆりおされとあ

れそ父母のかぐとひとひ
ゆめをとゐれるとれのかい
ぶをうのいりにかいゆりをと
ひをくいりをりきりしあ
うゐ〳〵にをのをイーゐり

○滝つぼの　東里山人
渦のまさま　名の月

世間
恋の
[illegible]